

～ 2016年 夏・秋号 ～

OBON SOCIETY

家族をつなげ、心を癒します



CBSテレビの番組サンデーモーニングで、OBONソサエティが紹介されて以来、私たちOBONのスタッフは大忙しとなり、ニュースレターの発行が遅れてしまいました。

今回の号では、多忙を極めたここ数ヶ月間の様子をお知らせしようと思います。

OBON SOCIETY

OBONがCBSで紹介されました

昨年11月に、CBS局の番組、サンデーモーニング担当のニューヨーク支局プロデューサーからOBONソサエティに連絡がありました。私たちの活動を番組で紹介したいとのこと。そのためには、まず始めにカメラの前でインタビューを受けていただける家族2組を探さなくてはなりません。探すのは容易なことではないのですが、幸いなことにCBS局は根気よく待ってくれました。



OBONのスタッフと調査員たちは、私たちが日本に送った寄せ書き日の丸の持ち主の親族探しに、昼夜を問わず努力しました。多くの親族に連絡は出来たのですが、カメラの前でお気持ちを話して下さる方はどなたもいません。懸命の努力を半年続け4月になった頃、私たちは不安になりました。もしかするとCBSの放送は無理なのではないかとさえ思えました。

そうこうするうち、ある日突然、オバマ大統領が広島を訪問するというホワイトハウスの発表がありました。現職の合衆国大統領が、アメリカが原子爆弾を投下した場所を訪問するという史上初の事です。早急に決定がされたようで、大統領の訪問はもう2週間に迫っています。



アメリカ合衆国と日本との間に交わされるこの歴史的な和解は、多くの意味で私たちOBONソサエティの活動に驚くほど酷似しています。しかし両国のリーダーのみが手を取り合うのとは異なり、私たちOBONの活動は、戦争の影響を直接受けた実際の家族の皆さんを繋げるお手伝いをしています。

CBS サンデーモーニングのプロデューサーは、これが OBON ソサエティの紹介には最高のタイミングだと感じたようです。

OBON SOCIETY

OBONがCBSで紹介されました

ニューヨークから至急の電話連絡があり、番組制作は大統領の広島訪問に合わせて早く作りたいとのことです。番組のホストを務めるリー・コワン氏はロスからアストリアへ空路到着し、映像クルーは2-3日でコワン氏と合流の予定です。

プロデューサーは出演者の名前や背景の詳細、歴史的な写真、過去映像を保管している日本のテレビ局への紹介を依頼しました。週末は瞬きをするようにあっという間に過ぎ去ります。月曜の夜には、OBONソサエティのスタッフは疲れ果てましたが、インタビューは翌朝早くに予定されています。



コロンビアリバー海洋博物館のご好意により、開館時間前に、レックス・敬子ジーク夫妻のインタビューを撮影することが出来ました。



制作クルーはテリー・ストックデール氏へのインタビューのため、その後ラスベガスへ飛びました。東京に本拠地を構える別のクルーは、貴志由楠氏の息子さんと娘さんのインタビューを行いました。収録画像はニューヨークに送られ、編集者とプロデューサーが急いでそれをまとめて番組を完成させました。そしてOBONソサエティへのインタビューをフィーチャーした番組は、5月29日、オバマ大統領が広島を訪問した後の、最初の日曜日に放映されたのです。

OBON SOCIETY

OBONがCBSで紹介されました

CBSサンデーモーニングで特集された映像のリンクは、こちらになります！

<http://www.cbsnews.com/news/the-flags-of-their-fathers/>



放送後、日曜日の朝6時50分に、最初のメールが届きました。ほどなくして多くのメールが届き始めました。

OBONソサエティに寄せられたメールの一部を紹介します。

件名: 日章旗

メッセージ:

父が太平洋戦線から持ち帰った旗を所有しています。父は第4海兵隊師団に所属しており、硫黄島、サイパン島、テニアン島に派遣されました。父はブロンズ・スターメダル、シルバー・スターメダルを授与しました。旗をお返ししたいと思っています。どのようにしたら良いか教えていただけますと幸いです。よろしくお願ひします。

件名: 第二次大戦での日章旗

メッセージ:

父が第二次大戦中に入手した旗を私にくれました。絹製のようで、とてもいい状態で保管されています。写真を送りますので、本当の持ち主の元に返せるかどうか見ていただけますでしょうか？メールアドレスを教えてください。写真と共に、旗について私の知る限りの背景、父の入手経路などをお送りしたいと思います。よろしくお願ひいたします。

件名: 父所有の旗

メッセージ:

とにかくもう、貴方様の大変意義のある活動に心を打たれました。今さっき放映された CBS 番組のおかげで、貴方様を探すことが出来ました。もうすぐ、多くの旗が貴方様の元へ大挙して押し寄せてくることでしょう。準備は出来ていると思います。そしてその押し寄せる旗のうち一枚は、私の父が家に持ち帰ってきたものも含まれます。これから探してみたいと思います。また近いうちに連絡差上げます。

OBOON SOCIETY

放送から2日後には、旗が同封された郵便が届き始めました。最初は旗の入った封筒を腕で抱えて家に持ち帰っていましたが、1週間も経たないうちに、あまりにも量が多いので、郵便局の方が箱にまとめて渡してくれるようになりました。



それぞれの封筒から中身を記録していく作業は念入りに行われ、スキャン・写真撮影・そして分類され、その詳細と画像をデータベースに入力し、大切に保存していきます。



届いた旗やその関連する資料は気の遠くなるような時間を使い、細心の注意を持って分類・記録されていきます。数週間があっという間に過ぎ、6月、7月、そして8月が過ぎていきました。

旗は止めどなく届きます。それぞれの旗のデザインや構図が、個々の家族のユニークさを表しています。届いた旗には、アメリカ人がどのように、そして何処で旗を入手したかというストーリーがあります。そしてそのストーリーもそれぞれの旗によって様々でユニークなのです。

件名: 戦利品としての日章旗

メッセージ:

私もこういった旗を持っています。叔父の所有物で、1944年12月にペリリュー島から持ち帰ったものです。叔父は当時24歳で少尉、7名いた海岸線部隊指揮官でした。その7名のほとんどは戦死しました。叔父は1991年に他界し、その後、叔父のベッドの横にあった、赤い漆塗りの飾り戸棚の中にあつた旗を見つけたのです。叔父は旗については何も語ったことはありませんでした。戦争での残虐行為は叔父にとっては饒舌に尽くしがたいことであつたでしょうし、早くに他界したのもその理由です。しかしその年のクリスマスに書かれた叔父の手紙があります。「戦友と共に埋めてくれ。」と書かれました。旗のコピー写真を送ります。



件名: 旗

メッセージ:

CBS サンデーモーニングを見ました。私の父は第二次大戦に参戦し、フィリピン・ニューギニア・日本に派兵されました。父が持ち帰った旗一枚を持っております。入手経路は分かりません。父は1975年に他界しております。旗には何か書かれており、血痕と思われるシミも付いております。旗は郵送させていただきます。貴方様のご活動に感謝いたします。リチャード。



件名: 日章旗

メッセージ:

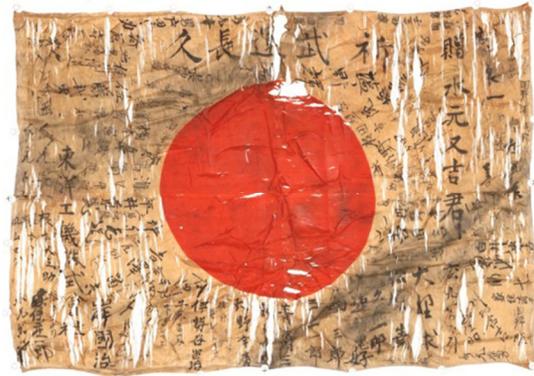
私の父が、ロイナムル島・テニアン島・サイパン島・もしくは硫黄島で見つけた旗を持っています。父は米海兵隊に所属しており、これら全ての4大戦闘に参加しました。父は既に故人ですので、どの島で旗を見つけたのかは分かりません。CBSサンデーモーニング見ました。非常に感銘を受けまして、ご遺族の終止符のために旗をお返ししたいと思います。何年にも渡りこの思いと葛藤しておりましたが、ようやく正しいと思えることを実行する時がきたと思っています。

OBON SOCIETY

スプーナー家と相馬家

クリス・スプーナー氏は、OBONソサエティ宛に2枚の旗と詳細が書かれたノートを送ってくれました。1枚の旗は損傷が酷く、もう一枚の方は平均的な保存状態でした。旗と一緒に手紙も同封されており、送り主のご好意に甘え許可を得ましたのでここに紹介したいと思います。

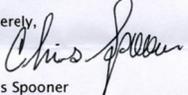
1. 同封の2枚の旗は、私の父であるクリフォード・スプーナーが持ち帰ったものです。父は陸軍第一騎兵師団所属の少尉か大尉であったと思います。父の部隊はフィリピン・ルソン島タクロバンかもしくはその近くに、1945年の4月から11月まで駐留しておりました。父が当時母に送った封筒が残っており、それには1945年9月3日海軍という消印があります。父は一時期、攻撃輸送艦ミズーラに乗艦していたとことです。



サンデーモーニングで放映された、OBONソサエティの活動についてを見ました。父から受け継いだ旗が保管されているのは知っていましたが、旗の持つ意味は全く知りませんでしたし、そんなに多くの旗があったことさえ知りませんでした。探して見ましたところ、2枚出てきました。いずれの旗も、テレビで見たものとは程遠い状態でした。この旗をもっと早く返さなかった事、お詫び申し上げます。そんな意義深いものとはただ知らなかったのです。この旗が本来の持ち主の元へ戻りますように祈っております。

敬具

クリス・スプーナー

Sincerely,

Chris Spooner

上記左側の写真に見える旗には、親族がある神社の名前を書き残しています。この貴重な詳細のおかげで、私たち捜索班が旗の出所を迅速にピンポイントで探すことが出来、それは東京から北へ数百キロの小さな地域であると判明したのです。

OBON SOCIETY

スプーナー家と相馬家

旗に書かれている神社は、1621年に建立されました。この年は巡礼者がプリマスロックに到着して約一年後です。神社は地元の人々と、この家族に献身的な人たちによって建てられました。

この話の中で興味深いのは、神社を建ててもらったというその家族はほとんどおらず、それ自体大変特別な家族であったことを意味しています。



OBONソサエティのスタッフは、地元の職員に連絡をとり、後日その家族に連絡をつけてくれました。

この家族には長い歴史があり、その歴史はしっかりと文書に記録され、先祖35代まで遡ることが出来ました。

この家族にとっての形見が存在しているというニュースは、家族皆さんをびっくりさせました。長い年月が過ぎた後、こんな奇跡が起こるとは想像も出来なかったようです。家族の皆さんは、行方が分からなくなっていた親族の形見を受け取りたいと申し出ました。

クリス・スプーナー氏は日本の家族宛に手紙を書き、その手紙はOBONソサエティのスタッフにより日本語に訳され、旗と共に日本へ送られました。こうした家族同士をお繋げすることは、私どもに連絡をされて来る方々からは頻繁にお願いされています。

伝統があり著名なこの家族の行方不明だったひとりが戻って来るということは、大変大きなニュースとなり、テレビ局や新聞社のレポーターが取材のためにこの小さな人里離れた地に大挙しました。役場の職員も到着し、返還式に参加したのです。亡くなった兵士の88歳になる弟さんと79歳になる妹さんは、親族が1000年以上住むこの地に住み続けています。



OBOON SOCIETY

スプーナー家と相馬家



OBON SOCIETY

スプーナー家と相馬家

亡くなった兵士の弟は、兄が出征した日を鮮明に覚えております。感謝の気持ちを込めて手紙を書いてくださいました。

August 10, 2016

Dear Mr. Chris Spooner and OBON Society:

My brother, Shigeharu's personal belonging; Japanese flag came home yesterday, 71 years after the end of the war.

I must say thank you from bottom of my heart to you, who maintained the flag such a long time with care, and to OBON Society, who made a tremendous effort for the return.

I never had any of my brother's personal belongings but this flag is indeed not only his memento but also it is his soul. I now recall feeling proud and ecstatic the time when my brother went off to war, and at the same time I deeply think about the preciousness of peace.

Thank you again and I am wishing you, Mr. Spooner and OBON Society, to have much continued good fortune and good health.

Sincerely,

Sadaharu Soma



クリス・スプーナー 様

OBON SOCIETY 様

昨日、戦後71年経って兄繁治の遺品である「日章旗」が私ども遺族のもとに帰って来ました。

これまで長い間、丁寧に持っていてくださった貴方様始め、返還にお力添え下さった「OBON SOCIETY」の皆様诚心より感謝申し上げます。

これまで兄の遺品は何一つありませんでしたがこの日章旗は唯一の形見であり、魂そのものであります。兄が戦争へ出征した頃を思い出し感慨ひとしおであります。そして平和の尊さを改めて考えさせられます。

本当にありがとうございました。貴方様のご健康とご多幸をそして「OBON SOCIETY」ご活躍をお祈り申し上げます。

2016年8月10日

日本国秋田県大仙市神宮寺字八石56
相馬貞治

レックスさん・敬子さん・OBONのスタッフの皆様

ありがとうという言葉以外何も見つかりません。昨日OBONより“最後のご報告”を受け取りました。涙が溢れ言葉も出ませんでした。この旗の重要な意義を伝えたテレビ番組が見れて、ありがたいと思っています。送って下さった相馬様の弟様が旗を受け取る姿を捉えた写真を見て、私たちは涙しました。会ったことはないのに、皆さんとの絆を確かに感じております。

敬意を込めて

クリス・パット スプーナー

Contact OBON SOCIETY

旗をお持ちの方、また旗を所有されている方をご存知でしたら、OBONソサエティにご連絡下さい。私たちは日本にいるご親族に旗をお返しいたします。ご質問等ございましたら、ご遠慮なくご連絡下さいませ。

OBON SOCIETY
P.O. Box 282
Astoria, Oregon 97103
contact@obonsociety.org

緊急です！ご支援お願いいたします！今後の活動のため、お力を貸して下さい！

OBONソサエティは手狭になった事務所から、新しい事務所に引越いたします。事務機器や事務用家具、収納棚などが揃い次第引越しの予定です。新しい事務所は広いので、旗の取り扱いがより早く効率的に出来ます。



ご支援は今まで以上に簡単に出来るようになりました。そしてご寄付は*税金控除が適用されます。
OBONではペイパルの口座を新設しました。クレジットカードでのご寄付が可能です。

<http://obonsociety.org/donate/>

小切手でのご寄付も郵送で受け付けております。宛先は、

OBON SOCIETY
P.O. Box 282
Astoria, Oregon 97103

日本在住の方

<ゆうちょ銀行からの振込>

記号: 14450 番号: 16577781

名前: OBON ニセンジュウゴ

<他金融機関からの振込>

振込先銀行名: ゆうちょ銀行

店名: 四四八(読み ヨンヨンハチ) 店番: 448

口座番号: 1657778

口座名: OBON ニセンジュウゴ

(「OBON2015」は、2015年の日章旗返還を目指した、OBONソサエティの前身名です)

OBONソサエティは皆様のご寄付によって活動しております。
今後の活動のためにも皆様のご支援をよろしくお願いいたします！

*税金控除が適応されるのは、合衆国内国歳入庁への申告のみで、日本の確定申告には適応されません。

an Oregon nonprofit corp
oration, tax-exempt under
IRC 501(c)(3), EIN 93-1010234.
Contributions to OBON SOCIETY are tax deductible
to the fullest extent allowed by law."